

# 老朽原発 うごかすな！ ニュース

第160号  
発行・老朽原発うごかすな！  
実行委員会

[連絡先]  
090-1965-7102

## 「2・15相談会」まとめ

2・15相談会「原発依存加速をゆるすな！」運動拡大にむけて」  
(「2・15相談会」と略)

「2・15相談会」には、泊から川内までの原発立地、青森の核燃料施設、使用済み核燃料中間貯蔵が画策される上関などから、対面、オンラインで94名のご参加、1通のビデオメッセージ、5通の紙面メッセージを頂きました。

「2・15相談会」では、以下のように、原発をめぐる情勢、脱原発・反原発運動の現状に関する有意義な情報交換を行うことができ、今後の運動の発展についての貴重な提言を得ることができました。

(なお、「2・15相談会」の動画は記録していますが、「相談会」の性格上、公開されていません。「ご覧になりたい方は、「老朽原発うごかすな！実行委員会」にご連絡ください。)

## 「2・15相談会」での討議、相談内容の概略

### 「1」原発をめぐる情勢 (参加者の共通認識)

①岸田政権以降、政権は「原発推進」へと右旋回し、衆院選で大勝した高市政権はこれを加速させている。

②「原発推進」の野党が台頭し、「脱原発」を主張していた政党の一部がこれを変節させた。

③司法も反動化し、政府、電力会社、規制委に忖度した判決の

みになった。政府、電力会社、規制委の主張を「社会通念」にしようとしている。

④政府、電力会社は、老朽原発稼働によって原発依存を進めようとしている。過酷事故の危険性が急増している。

⑤使用済み核燃料を貯蔵する燃料プールが満杯に近い。満杯になれば、原発を運転できないので、電力会社は乾式貯蔵に移す

ことに躍起。しかし、乾式に移した使用済み核燃料の行き場はない。上関などで画策している中間貯蔵施設建設を阻止しなければならぬ。

⑥使用済み核燃料の行き場として、政府や電力会社が完成を願望する再処理工場は、科学技術的に破綻し、動かない。東電・日本原電の出資で建設した青森県むつ市の中間貯蔵施設の使用

拡大(利用電力会社数拡大)が画策されている。許してはなら

ない。

⑦浜岡原発でのデータ改ざん、捏造は、電力会社提出のデータを鵜呑みにした「規制委」

の審査の理不尽・不当性を暴露した。全ての原発、核施設の

審査のやり直し、裁判での「規制委」の判断に依拠した

不当判決裁判のやり直しが求められる。

⑧14年ぶりに再稼働した柏崎刈羽原発6号機の、再稼働

直後のトラブル停止は、原発は「現在科学技術」で安全運

転できないことを示している。

## 2 脱原発・反原発運動の現状と直面する課題

①大半の報告で、運動の縮小、組織の衰退が指摘された。その

原因は、中心メンバーや参加者の高齢化、一部の団体の離脱、

自治体への請願を仲介する議員の減少、など。

②全国的な連帯行動、共同行動がほとんどできていない。

③政治、経済、司法の反動化に起因する消耗感が漂っている。

④福島では、「イノベーションコースト」構想など、補助金漬

けで復興を装って、原発事故を

なかったものとしようとしている。これを許さない闘いの再構

築が求められる。

⑤新しい運動、発展の可能性の



2・15相談会

## ③ 今後の運動に関する提言

①運動形態の多様化が必要  
従来からの集会、デモ(パレード)、講演会、学習会、スタン

ディング、チャリンの各戸配布、

ある運動が芽生えている。志賀原発廃炉訴訟に新たに原告60人が加わった。上関では「自然豊かな町」が町民の合言葉になりつつある。県民投票条例を求める署名運動が、女川(11万筆)、川内(4万6千筆)、柏崎刈羽(14万3千筆)で展開された。参加者が質問や意見が言える場所作りとして、新潟での「原発力フェ」の試みが紹介され、若狭での長期のアメーバデモによる地元の反応の変化が報告された。

街頭配布、車街宣、などだけでなく、住民投票、町民アンケートのような全地域を対象とした活動、アメールバデモ、ヒトリデモ、「原発カフェ」のような新しい形態の活動もある。

② 原発立地でも脱原発を望む声は大きい(増加している)

老朽原発や自然災害への不安、電力会社への不信感、地域の疲弊、過疎化などに起因する。「脱原発」後を見据えた町作りを運動にし、「脱原発」を民意にすることが重要。また、原発立地の「脱原発」の願いを原発電気の消費地(都市部)で共有しなければならぬ。

③ 運動の裾野を広げる努力を。  
・ 異質な意見も受け入れる  
(不一致を留保して一致点を拡大する) 緩やかな連帯が必要。

・ 黙っている周囲を「無関心層」と決めつけずに、大切に  
する仕方を編み出す。

・ 「原発を徐々に廃止」の声を  
持っている人にもアプローチする。

・ 原発や中間貯蔵施設に対する  
スタンスを問わず「100年後の未来に上関の豊かな自然と漁師文化を遺す」活動に

学ぶ。

・ 若者の脱炭素「気候正義」運動、自然エネルギーに立脚する農民、自然エネルギーを基にした地域づくりを進める団体、個人、「戦争のできる国づくり」に抗う住民、市民の運動との連携を進める。  
・ 子どもや高校生に訴える努力を。

④ 市民運動の限界を乗り越えるために、労働運動との連携を。  
とくに原発、核燃施設労働者の「脱原発」の闘いへの決起は、難題ではあるが、重要な課題。

⑤ 再処理工場の稼働阻止、むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設の共用阻止の行動と原発全廃運動の強固な連帯を。  
原子力マフィアは、最初干

工場の稼働、むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設の共用を強行して、使用済み核燃料の問題を一気に解決し、全面的な原発稼働に突き進むものとしていく。

⑥ 浜岡原発でのデータ改ざん、捏造の不祥事を脱原発・反原発運動再構築の突破口に。  
「データねつ造」「トラブル

の隠蔽」「約束反故」「国民だまし」をしなければ動かせない原発や再処理工場は「人類が制御できる設備」でないことを訴えることが重要。  
⑦ 「規制委」審査の理不尽・不当性の糾弾を。  
事業者提出のデータを鵜呑みにし、データ改ざん、捏造を見抜けないあるいは容認する「規制委」を糾弾し、全ての原発、核施設の審査のやり直しを求めよう。裁判での「規制委の判断」に依拠した不当判決を改めさせよう。  
⑧ 原発のない社会を展望する運動の構築(運動課題の拡張)を。

3・11直後は反原発・脱原発の主張で多数を結集し得た。今後は、政府や電力会社は、たかが10%程度の電力を得るために、過酷事故に至りかねず、行き場のない使用済み核燃料、放射性廃棄物を残す原発を、膨大な資金を費やして、稼働させていることの愚かさを訴え、自然エネルギーのみでなりたつ社会を展望することも重要。このことを若い世代(とくに10代)にも語りかけよう。  
⑨ 原発新增設反対の闘いの強化を。  
過酷事故を起こしかねず、使用済み核燃料を残し、燃料

であるウランの全てを輸入に頼る原発こそ、エネルギー自給を妨げている。時代に逆行する原発新增設を阻止し、自然エネルギーのみで成り立つ社会を創造しよう。  
⑩ 日本での反原発の闘いの高揚こそが国際連帯 原発過酷事故を起こした当事国の我々が、原発をとめる運動を高揚させることこそが、アジア・世界の反原発を闘う人々への最大の連帯であるという指摘を重く受け止めよう。

④ 当面実行可能な行動として「メイン・グリスト」を作成すること」を決定

「2・15相談会」では、反原発運動の拡大のために、今すぐ実現できることとして「全国的な原発に関する情報の交換と運動に関する情報の共有を可能にするメイン・グリスト」を作成することをになり、その作成と管理を、「老朽原発うごかすな! 実行委員会」

の中にチームを作って行うことになった。作成予定のメイン・グリストでの発信は情報交換と連絡に限る(複雑な議論はしない)こと、リストへの新たな参加はすでに参加されている方の推薦によることとした。  
以上

「2・15相談会」にご参加、ご支援いただきました皆様、ありがとうございました。  
老朽原発うごかすな! 実行委員会

「2・15相談会」の成果の上に、6・7「原発のない明日(あした)」を! 全国集会 in おおさか! 原発依存を加速する政権ゆるすな! の成功を! (「老朽原発うごかすな! 実行委員会」)